

令和5年度

特別支援教室 はなみずき教室

教室要覧



武蔵野市立第四小学校

I 教室の概要

- 1 設置校名 拠点校 第四小学校 巡回校 第三小学校 本宿小学校
- 2 教室名 特別支援教室 はなみずき教室
- 3 連絡先

学校名	電話	FAX
第四小学校	22-1423	22-7022
はなみずき教室直通	22-1443	22-1443
第三小学校	43-2322	43-9481
本宿小学校	22-4723	21-7692

4 児童数 令和5年4月1日現在

	第四小学校	第三小学校	本宿小学校	計
児童数	25	23	19	67

II 指導対象児童

武蔵野市立小学校の通常の学級に籍がある児童で、下記の状態にある児童を対象とする。

- ・通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要としている。
- ・音や光などの感覚が独特だったり、相手の気持ちを理解しにくかったりする特性がある。
- ・聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定のものに著しい困難さがある。
- ・不注意、衝動性、多動性があり、周囲との関わりや学習に支障がある。
- ・心理的な要因による選択性緘黙などがある。他

III 教育目標

1 教育目標

児童一人一人の教育的ニーズに応じて課題となる状態の改善を図り、学校や社会において自分で調整を図りながら自信をもって生活できる児童を育てる。

- ・自立活動の目標
 - ① 保護者・学級担任・特別支援教室教員と協議して、児童一人一人の特性に応じた連携型個別指導計画を作成し、適切な指導をする。
 - ② 個の障害や発達課題に応じ、各児童は個別指導と小集団指導の2時間、個別指導1時間、小集団指導1時間のいずれかを基本とし、効果的・効率的な指導をする。
 - ③ 思考を深める指導を通して児童自身のよさや強みに気付かせ、肯定的な自己理解を促す。
- ・在籍学級や各教科の内容と特別支援教室での指導との関連
 - ① 児童の在籍する学校と特別支援教室とで、情報交換を密にし、在籍学級での課題を改善する指導をする。
 - ② 児童一人一人の認知特性や行動特性に応じた学び方を身に付け、学習体勢の確立を図ることで、在籍学級の授業への参加、学習内容の習得・活動ができるように指導する。
 - ③ 「読む」「書く」「聞く」「話す」「計算する」「推論する」の6項目の中で、つまずきの見られるものについて、児童の実態に合わせて各教科の内容を取り扱い、学び方の指導をする。

2 基本方針

- (1) 連携型個別指導計画に基づいて、個の障害や発達課題に応じた自立活動を主とした指導（個別指導と小集団指導）をする。
- (2) 認知特性を客観的に把握するWISC-IVなどの検査結果を活用し、児童一人一人の認知特性に応じた課題を用いて指導する。
- (3) 在籍校で、集団を編成し、「自立活動」の指導を通して社会参加や自立を促し、必要に応じて「各教科の内容を取り扱いながら行う自立活動」を組み合わせる効果的・効率的な指導をする。
- (4) 児童の在籍する学校や家庭との連携を図り、児童の状態や達成目標に向けての進捗状況や課題、学習目標等について共有し、互いに理解・協力しながら児童の学習上又は生活上の困難が改善・克服できるようにする。

3 指導時間

学級担任や保護者と相談の上、児童の実態に応じて、指導の回数や時間を適宜設定する。
途中入級の児童の指導は1時間を基本とする。

IV 指導内容

1 学校毎の指導日と教員

※指導日以外も、特別支援教室専門員が在籍しています。

曜日	月	火	水	木	金
指導校	第四小 第三小 本宿小	第四小 第三小 本宿小	第四小 第三小 本宿小	第四小 第三小 本宿小	第四小

2 指導内容例

- (1) 個別指導や小集団指導で話し合いによる活動を通して、言語や非言語によるコミュニケーション能力、折り合いをつけること、状況の変化を理解し対応する力を育て、対人関係を構築する力を高めること。
- (2) 担当教員との関係を基に、他児童と関わることを通して、自己の感情や行動を調整する力を育てること。
- (3) 児童一人一人の実態や特性に合わせて、「視覚的な説明」「スモールステップ」「具体物の用いる」「文字をまとまりとして読む」「文章の読み上げ」「聞き取り」「ICT機器を使用した代替学習」「支援教材を用いた学習」等の方法や教材教具を用いて言葉によるコミュニケーション能力を育てること。
- (4) 認知の特性に応じて、「空間認知」「選択制注意」「作業記憶」「語彙力」「視覚認知」「聴覚認知」を高めること。

3 教室の行事予定

1学期	2学期	3学期
・保護者会 ・保護者面談 ・担任連絡会	・担任連絡会 ・保護者面談 ・保護者学習会	・担任連絡会 ・保護者面談

はなみずき教室は、子供が学校や地域社会で「自信をもって生活できる時間を増やす」ための指導・支援をします。

気付くことができなかつたり、いろいろ気になったり、急に動いてしまったりする。

急な予定変更が苦手で、人の気持ちを想像しにくく、困ってしまう。

家では元気に話せるのに、学校では上手に話せない。

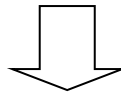
一生懸命書いたり覚えたりしても、みんなと同じように上手に勉強できない。



困り感をもっている子

読み書きが苦手な A 君
○曜日の午後2時間、個別に「各教科の内容を取り扱いながら行う自立活動」を受けます。

人との関わりが苦手な B さん
○曜日の午前中2時間、集団課題で「自立活動」を、個別課題で「各教科の内容を取り扱いながら行う自立活動」を受けます。



子供の「今ある力」を生かし「自信をもって」

関係性の時間

ゲームをしたり、みんなで活動内容を相談したりして人と関わる活動を行います。友達と活動を共にする楽しさを体感し、気持ちの安定をはかります。

個別の時間

一人一人が優先的に取り組む課題を選び、担当と一対一や小グループでの活動を行います。また、身体や空間のイメージを作るための運動に関わる課題を行います。

友達との付き合い方や特性に合った学び方を獲得し、在籍学級で楽しく過ごせるようになることが、最大の目的です。お子様の成長や在籍学級での様子に応じて相談をしながら、段階的に支援を減らし在籍学級で生活する時間を増やしていきます。